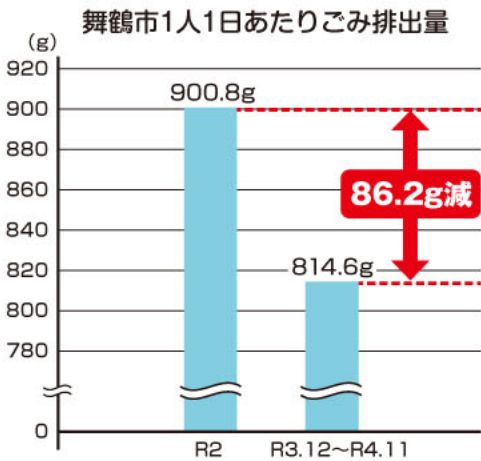


# どうしてごみの減量が必要なの？



令和3年度のごみ処理手数料見直し後、ごみ量は大きく減少しており、令和4年11月までの直近1年間の市民の1人1日あたりごみ量(速報値)は、令和2年度比で約10%減少しています。

一連の見直しは市民の皆様にあらためてごみ減量の重要性を気付いていただくきっかけになったものと考えられ、ごみ減量の成果は、市民の皆様のご協力の賜物であると考えております。

皆様には引き続きご協力をお願いいたします。



可燃ごみ

古紙  
拠点回収

清掃  
事務所

ペットボトル・  
プラスチック  
容器包装

その他の  
不燃ごみ

リサイクル  
プラザ

粗大ごみ

引き取り  
出来ないごみ  
補助制度

清掃活動支援  
手数料の  
使い道

舞鶴市の  
ごみの状況

事業者の  
皆様へ

ごみ収集  
カレンダー

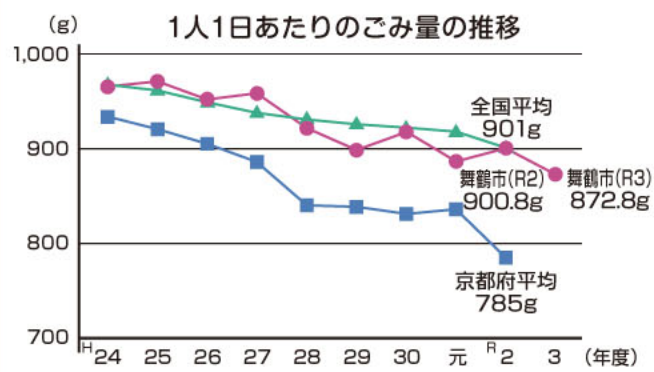
ごみ分別例  
一覧

## 舞鶴市の1人1日あたりのごみ量の状況

ごみ処理手数料見直し後も依然として、可燃ごみとして排出されたものの中には紙ごみや食品ロスが多く含まれています。

本市のごみ量は全国平均を下回るものの、京都府平均と比較すると、まだ多い状況にあります。

ごみ減量は進んでいますが、さらなるごみの減量が必要な状況にあります。



## ごみ減量と将来負担の軽減

ごみの処理には多額の費用を要し、環境への負担も発生します。



**清掃事務所の長寿命化工事**  
費用: 約38億円  
令和5年度完了予定



**リサイクルプラザも  
今後大規模改修が必要**



**最終処分場の整備工事**  
費用: 約15億円  
令和4年3月竣工

ごみを減量することは、将来のごみ処理施設の規模を小さくすることにつながり、環境への負担やごみ処理に掛かる費用も小さくすることが出来るよ。私たちのライフスタイルを少しずつ見直し、ごみ減量やリサイクルに取り組むことが持続可能な社会の実現に繋がるんだ。

